

何ができるようになるか  
○年次で育成する資質・能力



何が身に付いたか  
○年次の指導に関する評価

- (1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる
- (2) 主体的に学び続ける資質・能力を身に付ける
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・表現・判断できる

- (1) 課題を見だし、協働しながら創造的に解決できる力
- (2) 主体的に学習に取り組み、自らの学習状況を把握し、振り返りながら自己の学びを調整する力
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・表現・判断することができる力

・ ICT 機器などを活用しつつ、主体的に学ぶ機会や対話的に学ぶ機会が少なく、深い学びを実践している生徒が少ないことが課題である

・ 学校行事やキャリア形成活動において、主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子供への指導

- ・ 教育相談体制を整え、学校、保護者、SC、SSW 等と連携を図り支援する。
- ・ 必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の教育支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、学校全体で支援する。

・ 教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒

・ グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか  
○教育課程の編成

- (1) 自己理解を深め、他者と協働して課題解決を図ることができる資質や能力
- (2) 進路目標を具体化し、主体的・自主的に自己評価をしながら学び続ける力
- (3) 他者や地域との交流による、広い視野に立ち自ら考え、表現・判断できる資質や能力

どのように学ぶか  
○教育課程の実施

- (1) 各科目の授業や探究の時間における、課題発見・課題解決を企図した活動。
- (2) 進路研究を通じたキャリア教育。学習ニーズに応じた ICT 活用を含む個別最適な学びや、主体的対話的な授業の実践。
- (3) 適切に設定する多様な人との交流や協働活動。体験学習。ダイバーシティ教育。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

授業・探究活動・課外学習・外部模擬試験

生徒面談・教育相談・年次集会

進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会

青龍祭・修学旅行

保護者との連携

地域社会との連携

インターンシップ・外部講座

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ・ 身につけた知識やその理解度について自己評価し、自らの学習や探究的な活動を調整しながら学ぶことができる
- ・ 学校生活の充実と向上を図るための諸課題の解決に向けた活動を振り返り批判的に考え公正に判断できる
- ・ 多様な考え方に対する理解や公正な判断力を基盤に合意形成を図りながら協働して活動できる